

令和5年度 政策評価結果

令和5年9月

京 都 市

1 政策評価制度とは

(1) 政策評価制度の目的

政策評価制度は、京都市基本計画に掲げた政策・施策それぞれの分野において、その目的がどの程度達成されているかを、各種の指標やアンケート調査を基に把握し、市民の皆様公表するとともに、より効果的な市政の運営や政策の企画・立案等にかすためのものです。

なお、評価の結果は、毎年度の京都市の取組だけによるものでなく、これまでの取組の積重ねや、国その他の行政や民間など幅広い活動を踏まえたものとなります。そのため、毎年の評価結果だけでなく、中長期的な評価結果の動向や様々な主体の幅広い活動が及ぼす影響等も考慮したうえで、市政に活用します。

(2) 取組経過

平成 15 年度	試行実施
平成 16 年度～	本格実施
平成 19 年度	京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例（行政評価条例）の制定・施行
	〔 政策評価、事務事業評価等の 7 つの評価制度を 恒久的・継続的な取組に位置付け 〕
令和 2 年度	3 月 「はばたけ未来へ！ 京プラン 2025（京都市基本計画第 3 期）」（以下「京プラン 2025」という。）の策定
令和 4 年度	5 月 インターネットモニター調査による市民生活実感調査を 試行導入
令和 5 年度	9 月 政策評価結果を公表
	（今後の予定） 政策評価委員会に評価結果を報告し、来年度の 政策評価方法の改善方針等について審議

(3) 政策評価の対象と手法

ア 評価の対象

「京プラン 2025」の政策体系をベースに、特定の行政課題に対応するために本市が目指すべき基本的方向である政策（27 項目）と、政策をより具体化した行政活動の目標となる施策（114 項目）を評価します。

イ 評価の手法

政策・施策ごとに、統計データ等の中から客観指標を設定して目標達成度等の成果を測る「客観指標評価」と、「京プラン 2025」に掲げた「みんなでめざす 2025 年の姿」に対して今の市民生活がどうなっているかをアンケートでお尋ねする「市民生活実感評価」の結果を総合し、A～E の 5 段階で評価します。

なお、政策評価制度については、政策評価委員会からの意見を踏まえ、毎年度、客観指標や評価票の見直しなど充実、改善を行っており、今年度も実態に合わなくなった客観指標や目標値を見直すなど、よりの確で分かりやすい制度づくりを進めています。

【客観指標評価】 → a ～ e の 5 段階評価

政策指標の例：市内の学生数が全国の学生数に占める割合

施策指標の例：京都ならではの単位互換科目の開設数

※ 各政策・施策の状況を統計的な数値等により表した客観指標をそれぞれに設定し、その目標達成度を評価します。

※ 政策については、関連する施策の評価を加味して評価します。

【市民生活実感評価】 → a ～ e の 5 段階評価

アンケートの設問例：「大学のまち」として学びの環境が充実し、京都ならではの学びと出会うことができる。

※ 市の取組についてどう思うかではなく、市民生活がどのようになっているかを 118 の設問でお尋ねし、「そう思う」から「そう思わない」までの 5 段階で答えていただきます。

【総合評価】 → A ～ E の 5 段階評価

政策・施策の目的が

- A：十分に達成されている
- B：かなり達成されている
- C：そこそこ達成されている
- D：あまり達成されていない
- E：達成されていない

※ 政策・施策それぞれで客観指標評価と市民生活実感評価を同等に扱い、総合評価を行います（例：客観指標評価が a、市民生活実感評価が c の場合、総合評価は B）。ただし、客観指標評価が a、市民生活実感評価が b であるなど、客観指標評価と市民生活実感評価の評価結果の平均が A～E の 5 段階で区分できないときは、施策の具体的な内容等に応じて予め定めておいた、より重視すべき方の評価結果（客観指標評価又は市民生活実感評価）を重視して、総合評価を行います。

2 政策評価結果

(1) 政策の評価

令和5年度の政策の評価結果は次のとおりです。

政策の 総合評価	A 十分に達成 されている	B かなり達成 されている	C そこそこ達成 されている	D あまり達成 されていない	E 達成されて いない	計
令和5年度	2	23	2	0	0	27
令和4年度	2	19	6	0	0	27

主な政策の総合評価の結果等

○ 政策名「市民生活とコミュニティ」(政策番号3) C

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域で実施する様々な活動が中止・延期となったことなどから、施策の客観指標の「京都市自治会・町内会&NPO おうえんポータルサイトのアクセス件数」が減少し客観指標評価がd評価となったことに加え、市民の実感も得られにくく、市民生活実感評価もc評価となり、総合評価はC評価となりました。今後、地域活動が徐々に再開していく中で、誰もが「地域の一員」として安心して快適に暮らせるまちづくりを進めていくため、「地域コミュニティ活性化ビジョン」に基づき、多様な地域コミュニティの活性化を目指してまいります。

○ 政策名「スポーツ」(政策番号6) B

新型コロナウイルス感染症の対策が進み、3年ぶりの京都マラソン2023の開催をはじめ市民のスポーツ活動が徐々に再開されたことにより、市内でスポーツを観戦した割合やボランティアとして参加した割合も大きく伸びたことなどから、客観指標評価はa評価となりました。一方で、コロナ禍以前の活動状況までには戻っていないことから、市民生活実感評価はc評価となり、総合評価はB評価となりました。今後、スポーツ活動が本格的に再開する中で、スポーツ関係団体等との連携を一層深め、市民のスポーツ活動の活性化、さらにはスポーツを通じた健康で心豊かなくらしや様々な人と人とのつながりの実現、まちの魅力の向上を目指してまいります。

○ 政策名「観光」(政策番号8) B

政策の客観指標の「市民生活への観光の影響」がa評価になったことや、まん延防止等重点措置や入国制限が緩和されたことに伴い、「MICE誘致の推進」がa評価になったことなどにより、客観指標評価はa評価となりました。また、多様なエリアにおける魅力発信や混雑状況・観光快適度の見える化等の観光課題対策に取り組むとともに、京都観光モラルの普及・実践を促進してきた結果、「文化財や街並み、食、買い物等の多様な魅力が高まり、観光客が高い満足を感じている」等の市民生活実感評価がb評価

となったことから、総合評価はB評価となりました。引き続き、市民生活と観光の調和を最重要視し、持続可能な観光の実現に向けて取り組んでまいります。

○ 政策名「国際」(政策番号11) B

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る制限の緩和が進んだことにより、政策の客観指標の「国際会議開催件数」などが大幅に回復するとともに、施策の客観指標の「高度外国人材の人数」なども目標値を上回ったことから、客観指標評価はa評価となりました。一方で、市民・民間主体の国際交流イベントについては、規模縮小や中止が相次ぐなど新型コロナウイルス感染症の影響が残り、国際交流や外国文化への関心・理解等に関わる市民生活実感評価が引き続きc評価になったことから、総合評価はB評価となりました。今後、海外との交流が再開されつつある中で、活発な姉妹都市交流等を通じ、市民間の相互交流や相互理解の促進などに取り組んでまいります。

○ 政策名「消防・救急」(政策番号26) B

新型コロナウイルス感染症の影響による救急出動件数の増加等に伴い政策の客観指標の「救急車の現場到着時間」が延伸するとともに、施策の客観指標の「消防団員の充足率」が目標値を下回ったことなどから、客観指標評価がb評価となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響による地域活動等の自粛や規模縮小に伴い地域における防火・防災の取組機会が減少したことなどから、市民生活実感評価はc評価となり、総合評価はB評価となりました。引き続き、消防・救急体制の強化や地域団体と一層連携した防火・防災対策の推進、SNS等を活用した消防・救急施策の広報等により、安心して市民が暮らし、観光客が訪れることのできる「安心都市・京都」を目指してまいります。

<政策の評価結果一覧>

政策	評価		政策	評価	
	R5年度	R4年度		R5年度	R4年度
1 環境	B	B	15 健康長寿	B	B
2 人権・男女共同 参画	B	B	16 保健衛生・医療	B	B
3 市民生活とコミ ュニティ	C	C	17 学校教育	B	B
4 市民生活の安全	B	B	18 生涯学習	B	B
5 文化	B	B	19 危機管理・ 防災・減災	B	C
6 スポーツ	B	C	20 歩くまち	B	B
7 産業・商業	A	A	21 土地・空間利用 と都市機能配置	C	C
8 観光	B	B	22 景観	B	B
9 農林業	B	B	23 建築物	B	B
10 大学	B	B	24 住宅	B	B
11 国際	B	C	25 道と公園・緑	B	B
12 子ども・若者 支援	B	B	26 消防・救急	B	B
13 障害者福祉	B	C	27 暮らしの水	A	A
14 地域福祉	B	B			

(2) 施策の評価

令和5年度の施策の評価結果は次のとおりです。

施策の 総合評価	A 十分に達成 されている	B かなり達成 されている	C そこそこ達成 されている	D あまり達成 されていない	E 達成されて いない	計
令和5年度	8	75	28	3	0	114
令和4年度	12	68	28	6	0	114

※ 各施策の評価を示した評価結果一覧や政策・施策評価の根拠となる客観指標、市民生活実感の基礎データ等、評価に係る詳細な情報については、政策評価結果のホームページ及び京都市オープンデータポータルサイトにおいて公開しています（ホームページアドレスは下記のとおり）。

- 政策評価結果ホームページ

<https://www.city.kyoto.lg.jp/menu5/category/69-17-2-5-0-0-0-0-0-0.html>

- 京都市オープンデータポータルサイト

※ サイト内で「政策・施策評価」「市民生活実感調査」と検索ください。

<https://data.city.kyoto.lg.jp/>

3 評価結果を市政運営へ活用

評価結果については、来年度の予算編成、各局区等の政策推進などの際に、重要な情報として活用していきます。

4 第三者機関の意見 ～京都市政策評価委員会による制度の改善、充実～

今後、第三者機関である京都市政策評価委員会から今回の政策評価結果に関する御意見を頂き、来年度に向けて制度の改善、充実を行います。

京都市政策評価委員会委員（敬称略・五十音順）

掛谷 純子 京都女子大学現代社会学部准教授
田中 成美 市民公募委員
中井 歩 京都産業大学法学部教授
中田 英里 公認会計士
深川 光耀 花園大学社会福祉学部准教授

（令和5年9月1日時点）

<令和5年度 市民生活実感調査について>

1 調査対象

20歳以上の市民（民間企業の登録モニター）970人※

※ 「京都市住民基本台帳人口」における人口構成比（性別・年齢・行政区）に基づき、インターネットモニター調査を実施した。

2 調査内容

(1) 生活実感

「京プラン2025」に掲げた「みんなでめざす2025年の姿」に対して、今の市民生活がどうなっているかをお尋ねするため、118の設問について市民の実感を、次の5段階で回答いただくもの

a: そう思う b: ややそう思う c: どちらとも言えない
d: あまりそう思わない e: そう思わない

※ 設問数が多いため、2組（調査A・B）に分けて実施

(2) 政策の重要度

27政策のそれぞれについて、市民が考える重要度を5段階で回答いただくもの

(3) 市政への関心度

市政への関心度合いを5段階で回答いただくもの

(4) 幸福実感

幸福の実感度合いを5段階で回答いただくもの

3 調査期間

令和5年5月12日～5月19日

4 調査結果

(1) 生活実感

ア 生活実感調査結果の集計

	a	b	c	d	e	計
令和5年度	0	22	92	4	0	118
令和4年度	0	27	86	5	0	118

イ 肯定的な回答（アの a と b を合わせた回答）をした人の割合が高い設問

令和5年度	①マイバッグの利用やごみの分別・リサイクルの徹底など、ごみの出ない暮らしと事業活動が広がっている。(63.8%)
	②上下水道は便利で市民の役に立っている。(63.1%)
	③上下水道は安全で安心していつでも利用できる。(60.1%)

(参考)

令和4年度	①マイバッグの利用やごみの分別・リサイクルの徹底など、ごみの出ない暮らしと事業活動が広がっている。(68.8%)
	②市バス・地下鉄は、市民生活に役立っている。(65.2%)
	③京都のまちを出歩くことは楽しく、健康にもよい。(64.4%)

ウ 否定的な回答（アの d と e を合わせた回答）をした人の割合が高い設問

令和5年度	①男女間等における暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。(43.9%)
	②農林業が魅力的な産業となり、後継者や新たな担い手が育っている。(43.6%)
	②自転車ルールやマナーを守って安心・安全で快適に利用されている。(42.6%)

(参考)

令和4年度	①農林業が魅力的な産業となり、後継者や新たな担い手が育っている。(46.1%)
	②自転車ルールやマナーを守って安心・安全で快適に利用されている。(41.6%)
	②男女間等における暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。(40.7%)

エ 政策の生活実感評価

生活実感調査の回答を点数化（a:2点 b:1点 c:0点 d:-1点 e:-2点）し、政策分野別に集計した結果、生活実感評価の高い政策分野順位は別表1のとおりとなりました。

【別表 1】生活実感評価の高い政策分野順位

政策分野	令和5年度	令和4年度
くらしの水	1	1
大学	2	3
景観	3	2
観光	4	6
産業・商業	5	4
国際	6	8
環境	7	7
歩くまち	8	5
消防・救急	9	9
文化	10	13
保健衛生・医療	11	10
道と公園・緑	12	14
土地・空間利用と都市機能配置	13	15
建築物	14	12
住宅	15	11
市民生活とコミュニティ	16	17
学校教育	17	18
生涯学習	18	19
健康長寿	19	16
市民生活の安全	20	20
危機管理・防災・減災	21	24
スポーツ	22	23
子ども・若者支援	23	21
障害者福祉	24	22
地域福祉	25	26
人権・男女共同参画	26	25
農林業	27	27

(2) 政策の重要度【別表2参照】

27政策それぞれについて、市民が考える政策の重要度を、「重要」、「やや重要」、「どちらとも言えない」、「あまり重要でない」、「重要でない」の5段階で回答いただくもの

「重要」又は「やや重要」と回答した人の割合が高い政策

令和5年度	①くらしの水、②市民生活の安全、③保健衛生・医療、 ④消防・救急、⑤危機管理・防災・減災
-------	---

(参考)

令和4年度	①くらしの水、②市民生活の安全、③保健衛生・医療、 ④消防・救急、⑤環境、危機管理・防災・減災
-------	--

(3) 市政への関心度（市政への関心度合いを5段階で回答）

	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答
令和5年度	17.2%	36.0%	21.4%	15.9%	9.4%	0.1%

(参考)

	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答
令和4年度	17.3%	38.5%	20.5%	16.5%	7.1%	0%

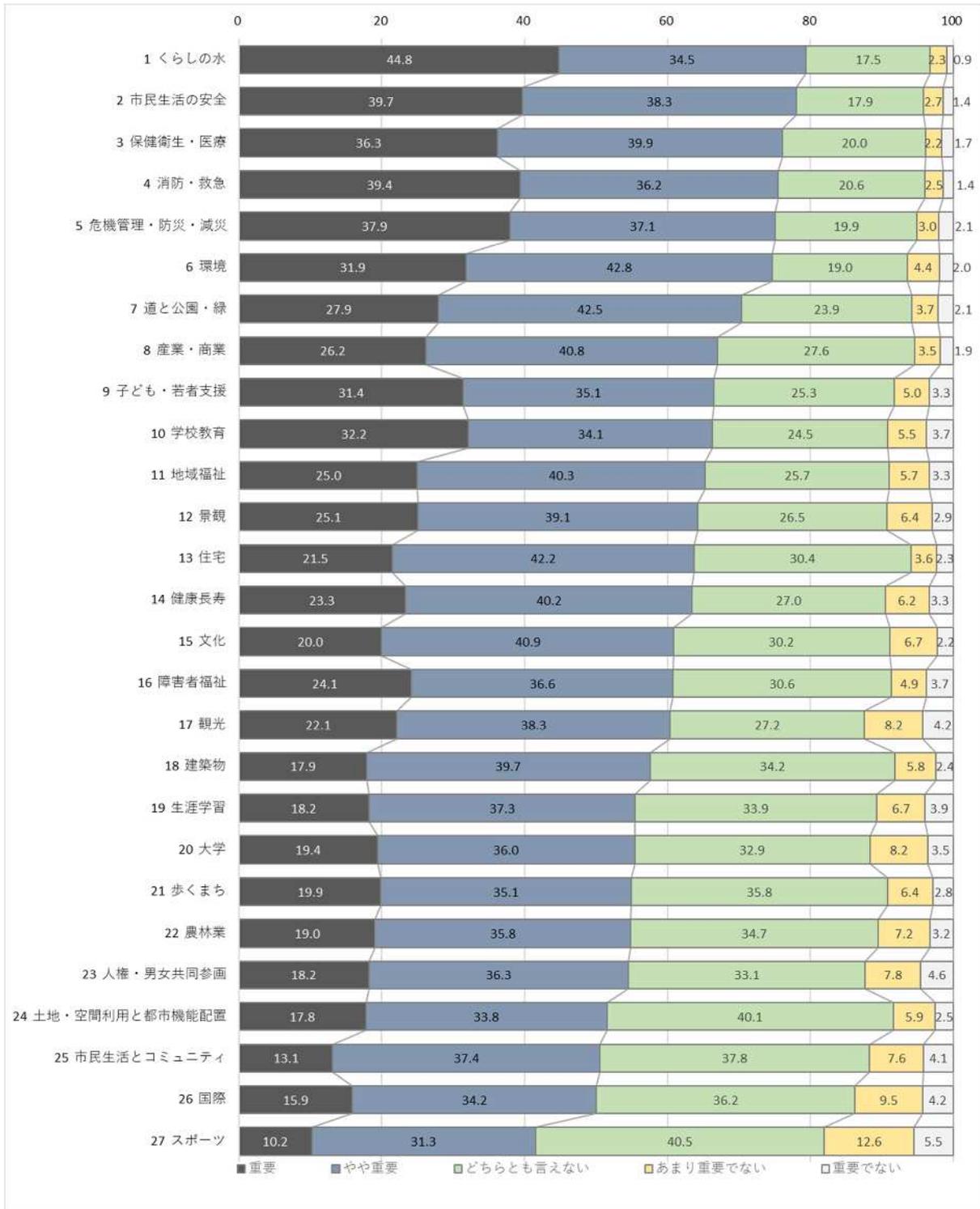
(4) 幸福実感（幸福の実感度合いを5段階で回答）

	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答
令和5年度	16.1%	39.2%	25.6%	10.5%	8.6%	0.1%

(参考)

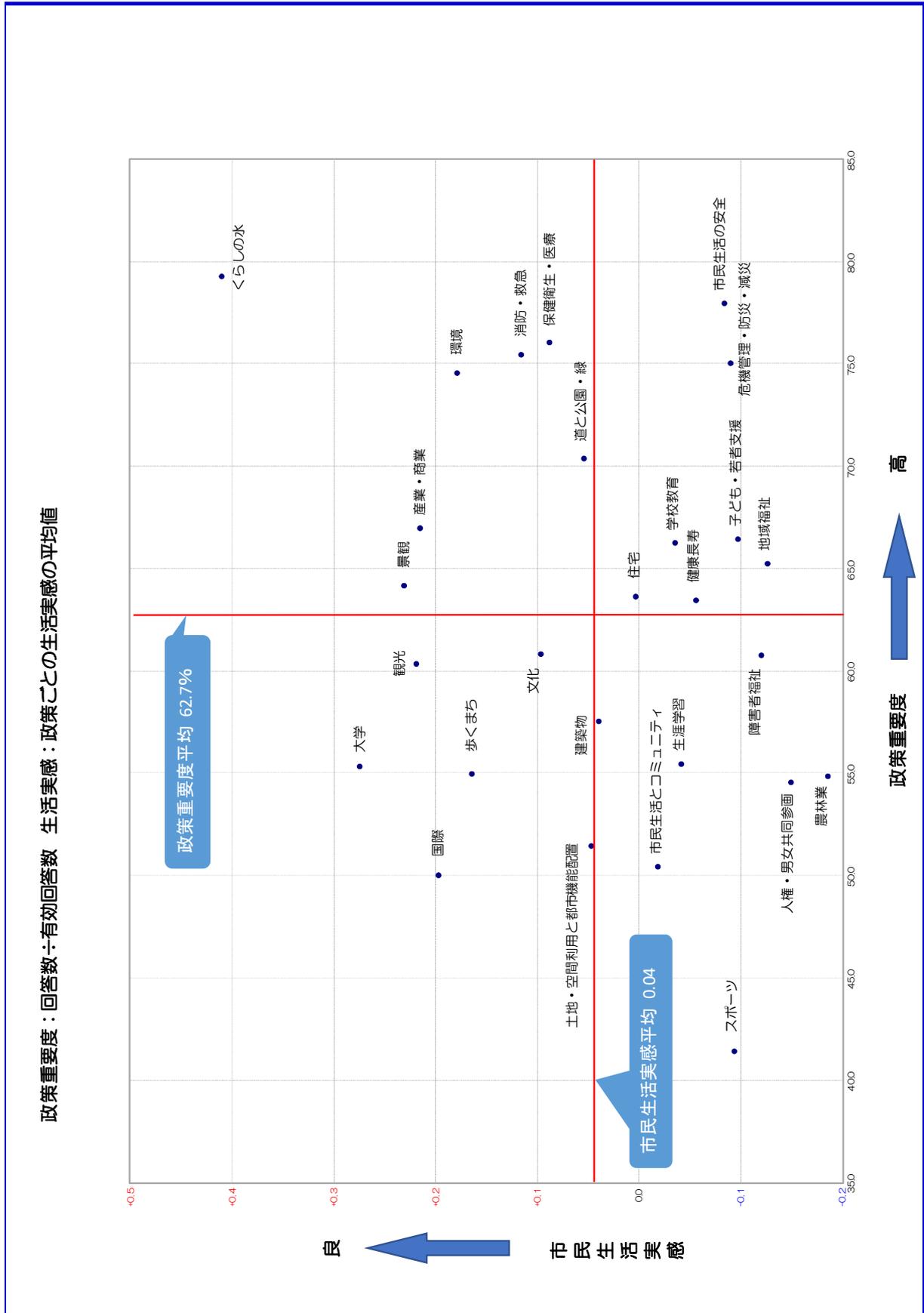
	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答
令和4年度	18.0%	39.0%	24.0%	12.3%	6.5%	0.1%

【別表 2】政策の重要度

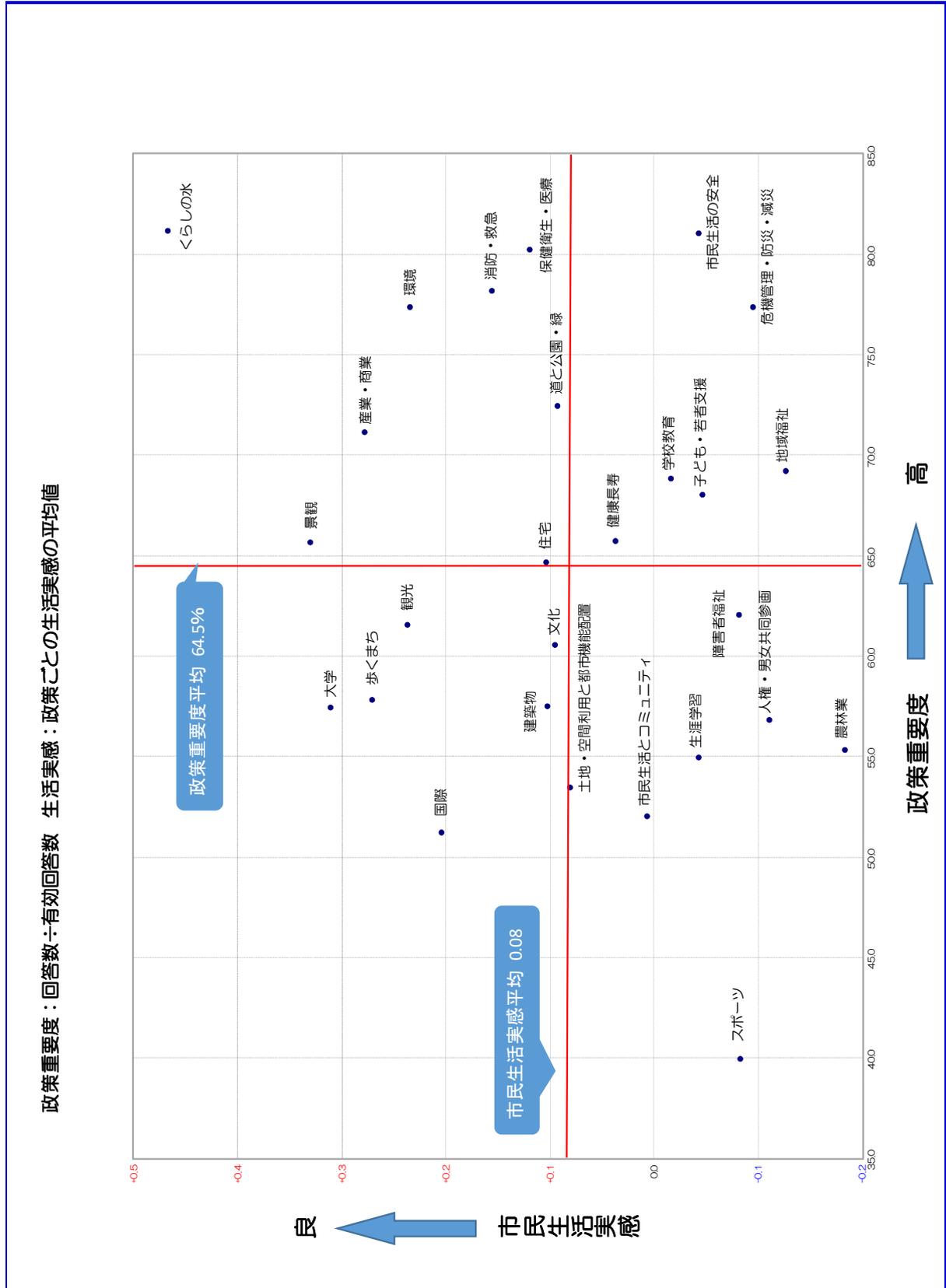


※ 上記グラフ内は、有効回答に占める「重要」～「重要ではない」を選択した人の割合を記載している。
 ※ 政策重要度は、「重要」又は「やや重要」を選択した人数を有効回答数で除する方法により、順位付けを行っている。
 なお、上記グラフではそれぞれの割合の内訳を示しているため、四捨五入の関係で、「重要」と「やや重要」の割合の合計が同率となる場合がある。

【別紙3】令和5年度の政策重要度と生活実感のマトリックス



【参考】令和4年度の政策重要度と生活実感のマトリックス



政策評価結果は以下のホームページに掲載しています。

また、9月21日（木）から京都市情報公開コーナーにおいても公開します。

- 政策評価結果ホームページ

<https://www.city.kyoto.lg.jp/menu5/category/69-17-2-5-0-0-0-0-0-0.html>

- 京都市オープンデータポータルサイト

※サイト内で「政策・施策評価」「市民生活実感調査」と検索ください。

<https://data.city.kyoto.lg.jp/>

- ※ 施策評価結果及び政策・施策評価の根拠となる客観指標や市民生活実感の基礎データ等は上記サイトを御参照ください。

京都市の政策評価に関する御意見・御提案をお待ちしています。

- ホームページ内の送信フォームによる受付

（「市民意見申出制度」ホームページ

<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000253980.html>）

- 電話・FAXによる受付

京都市総合企画局市長公室政策企画調整担当

TEL：075-222-3035 FAX：075-213-1066